

## 令和2年度鳥取県高等学校PTA指導者研究大会 教育長挨拶

日時 令和2年11月15日(日) 午前10時～

会場 鳥取県高等学校PTA連合会所属の各高等学校

秦野会長様をはじめ、鳥取県高等学校PTA連合会のみなさまにおかれましては、日ごろより、それぞれの学校、地域において、高校生の健全な成長や高校教育振興の推進役としてのPTA活動にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

今年は、世界中に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症への対応として、本県でも、臨時休校や、分散登校等を余儀なくされました。そして、現在も子どもたちの学校内外での生活に様々な影響が生じていますが、こうした先が見通せない困難な状況の中で、本県では、子どもたちの命と生活を守ることを最優先にしつつ、「学びを止めない」をキーワードとした、鳥取型「新しい学校生活様式」に基づいた教育活動を実施しているところです。また、その一方で、これまでの「当たり前」がそうでなくなった状況の中で、改めて学校や友人、家族の存在の大切さに気づくことのできた貴重な機会であったとも言えます。

このコロナ禍の中で、インターネットを活用したオンラインでの交流なども進んでおりますし、AIもどんどん進展しております。このような中で、これからの社会を担っていく子どもたちは、まさに答えのない課題に直面をしていくことになるでしょう。そうした子どもたちに、答えのないものにチャレンジしていく力やより良い解決策を求めて仲間と力を合わせて社会を切り開いていく力を身につけることが、今後ますます、求められてきているのではないかと思います。

そこで現在、すべての県立高校で「探究的な学び」に取り組んでおり、例えば、生徒自ら地域に出向き、地域を知ることで地域の課題を見つけて、その課題を解決するための方策を考えるなど取組を進めています。この取組は、生徒一人一人が、地域の課題を自分ゴトとして捉え、将来の進路選択や生き方を考える「ふるさとキャリア教育」としても展開しており、卒業後一度県外に出ても「ふるさと鳥取」とつながるアプリ「とりふる」の登録推進も図っているところです。

また、コロナ禍の中で部活動の在り方を考える機会となりました。学校の教育活動が制限される中、中止となりました高校総体や総合文化祭の代替大会として「わかとり夢の特別大会」と銘打って、生徒のみなさんが今まで取り組んできた成果を発表する場を設け、保護者のみなさまにも子どもの頑張っている姿をご覧いただけたと思います。一方、昨今の「教員の働き方改革」を踏まえると、学校の部活動の在り方を見直す必要性も大きくなってまいりました。部活動指導員の配置や引率の仕方、大会運営などPTAや地域の方々のご理解とご協力が必要と考えております。特に、大会等、部活動における生徒引率については、生徒の安全確保を図りつつ、より適切なものとなる様、早急に見直しを行うこととしております。

さて、報道でも取り上げられましたが、本県では、平成28年10月に鳥取県支え愛交通安全条例を制定し、ヘルメットの着用に努めるよう規定したところですが、今

年7月に実施された民間団体による調査によると、本県のヘルメット着用率はわずか18%にとどまっている状況でした。これを受けて、先日、県においてヘルメット着用促進ワーキンググループが立ち上げられました。県内における自転車乗車中の事故につきましては、高校生の割合が多いとの統計もでております。生徒の命を守るためのヘルメット着用を促進するためにも、PTAの皆さまのご理解とご協力を賜りたいと存じます。

県教育委員会も皆さまと力を合わせて、この予測困難な時代を子どもたちが「たくましく」「夢をもって」「自立して」生きていくために、全力を注ぐ所存であります。今後とも、一層の御理解と御協力をお願いします。

最後になりましたが、本日の研究大会が盛会になりますこと、そして、お集まりの皆様方の御健勝、御多幸と鳥取県高等学校PTA連合会の一層の発展を祈念申し上げます。歓迎の御挨拶とさせていただきます。

令和2年11月15日 鳥取県教育委員会 教育長 山本仁志